

香川県総合計画の見直し 骨子案(仮)の概要

総合計画の性格と役割

- ◆ 本県の目指す方向とそれを実現するための方策を明らかにした
県政運営の基本指針
- ◆ 県民に対しては、県政に対する理解のもと、協働の取組みを期待
するもの
- ◆ 国や市町等に対しては、適切な役割分担のもとに連携、協力して
施策を推進することを期待するもの
- ◆ 県職員及び県の組織に対しては、常にこの計画の基本目標と
基本方針を念頭に置いて、様々な状況で生活している県民の立場
や視点に立ち、セクショナリズムに陥ることなく、一層の部局横断的
な協力・連携のもと、県民生活の向上のために一体的・総合的な
取組みを求める行動規範として機能させるもの
- ◆ 計画期間：令和3年度～7年度（変更なし）

計画見直しの趣旨

【昨今の社会経済情勢等】

- 「みんなでつくるせとうち田園都市・香川」実現計画は、令和3年10月に策定したところだが、少子高齢化とそれに伴う人口減少などの課題は、さらに速度を増し、より深刻化している。
- さらに、コロナの長期化や世界的サプライチェーンの危機、急激な原油・物価高騰など、これからの本県の社会経済や県民生活、自治体経営に大きな影響を及ぼす新たな事象も発生している状況となっている。

こうした状況を踏まえ...

【計画見直しの趣旨】

- 改めて中長期的な将来を展望し、本県の目指す姿と向かうべき道筋を構想したうえで、今、手を打ち、取り組む必要のある政策を、全部局が県民目線に立って一体となって推進する視点で再構築するために、計画の見直しを行うこととする。

「人生100年時代のフロンティア県」の実現

人生100年時代を迎える中、すべての県民が生涯のあらゆる段階で活躍し、人生の豊かさと幸せを実感しながら安心して暮らすことができる地域社会を全国に先駆けて実現する「人生100年時代のフロンティア県」を目指す

昨今の社会経済情勢等

1 加速化・深刻化している課題

○人口減少、少子高齢化

- ・直近の本県の人口動態は、人口ビジョンの目標値を下回って推移しており、また、出生数についても、減少傾向が続いているなど、本県の人口減少及び少子高齢化は加速度的に進行し、深刻な状況となっている。
- ・一方、社会増減については、回復の兆しが見られる。

年次	人口増減	うち自然増減	うち社会増減	出生数
平成30年	△5,869	△5,214	△655	6,899
令和元年	△6,030	△5,491	△539	6,631
令和2年	△7,337	△5,956	△1,381	6,179
令和3年	△9,022	△6,053	△2,969	6,223
令和4年	△8,110	△7,680	△430	5,884(※)

(出典)人口増減:香川県人口移動調査報告、

出生数:厚生労働省人口動態統計 (※)R4の出生数については県人口移動調査報告の数値を使用

昨今の社会経済情勢等

2 新たな事象

- ・ 令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大による行動制限、渡航・移動制限などの対策に起因する世界的な経済の停滞や人手不足
- ・ 各国の大規模な財政措置による急激な需要喚起による物流の遅延や価格の高騰

世界的なサプライチェーンの混乱

- ・ コロナ対策の制限緩和等による欧米を中心とした景気回復等、ウクライナ情勢の影響

物価の上昇、食糧、エネルギー、資源の価格高騰

- ・ 国の水際対策の見直しなどにより拡大する観光需要の取り込みなど

地域間競争の激化

基本方針

(1) 安全・安心で住みたくなる香川をつくる「県民100万人計画」

子育て環境や教育環境、医療・介護・福祉サービス、防災・減災や防犯、交通事故対策など生活環境を充実させることにより、年齢や性別、障害の有無に関わらず、誰もが安全・安心に暮らせる、住みたくなる香川をつくる。

(2) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる「デジタル田園都市100計画」

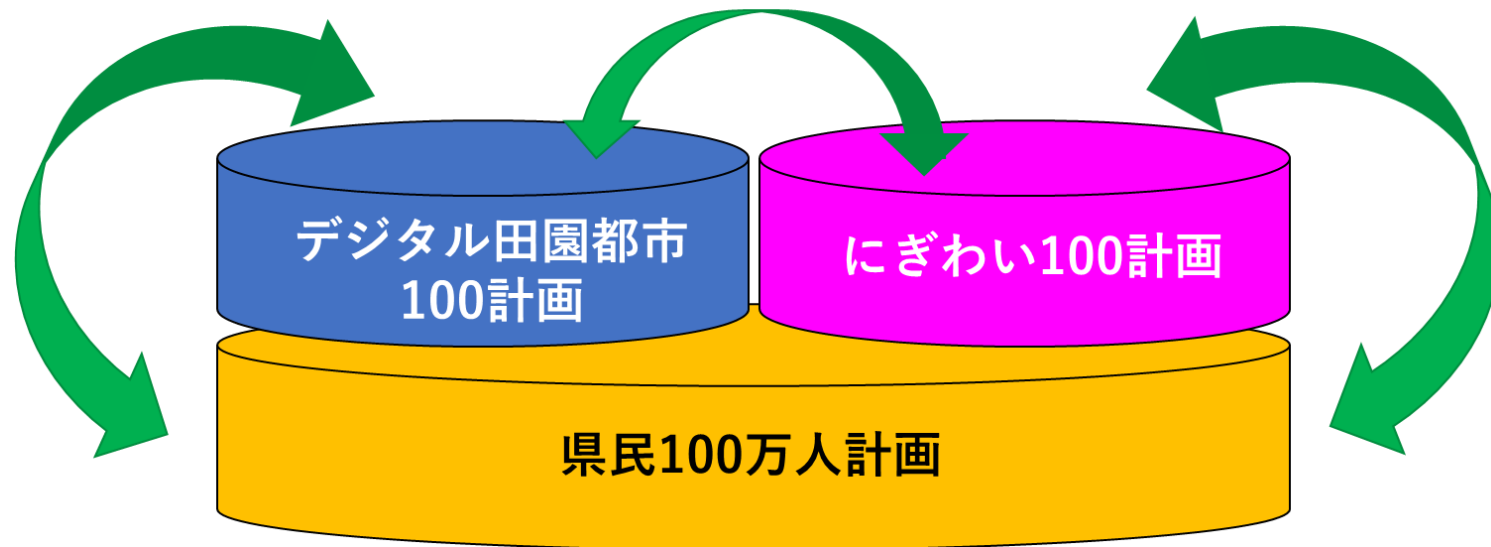
デジタル技術も活用しながら、企業誘致やスタートアップ等の創出、港湾・空港機能の充実や広域道路ネットワークの整備による産業基盤の強化、農林水産業の振興、県産品の販路拡大などにより、経済発展に向けた活気に満ち挑戦できる香川をつくる。

(3) 多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる「にぎわい100計画」

瀬戸内海をはじめとする本県の魅力を広く発信し、国内外から多くの観光客を誘致するとともに、訪れた人の利便性・満足度の向上に向けたまち全体の美化と快適な都市空間の整備を進め、文化芸術・スポーツの振興による地域の活性化を図ることで、多くの人が行き交い訪れたくなる香川をつくる。

3つの基本方針の関係

基本目標：「人生100年時代のフロンティア県」の実現



○高齢化が進行し、さらに中長期的には大幅な人口減少が強く懸念される中、地域社会を持続可能なものとしていくためには、何よりも、高齢化・人口減少社会に対応しつつ、将来的な人口増のために、安全・安心で、あらゆる人から生活の場として選ばれる地域社会をつくることが不可欠であることから、「県民100万人計画」をベースとなる基本方針として位置づける。

○また、経済発展を図り、活力に満ちた挑戦できる社会をつくる「デジタル田園都市100計画」と本県をステージとして多くの人々の交流をつくる「にぎわい100計画」は、「県民100万人計画」により構築する安全・安心で住みたくなる香川の魅力を高め、そのことにより一層本県に人が集い、さらに経済発展や交流拡大が誘発される好循環を目指すもの。

第2期かがわ創生総合戦略との関係

- ◆ 見直し後の総合計画について、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に規定する「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略」としても位置付けることとする。
- ◆ 令和2年3月に策定（令和4年3月変更）した第2期かがわ創生総合戦略は本計画の見直しに伴い廃止することとし、同戦略に掲げる2つの戦略と4つの基本目標に基づく施策は、見直し後の総合計画における3つの基本方針「県民100万人計画」、「デジタル田園都市100計画」、「にぎわい100計画」を推進する施策に引き継ぎ、デジタルの力を活用しながら地方創生に取り組むこととする。

重点政策 概念図

基本目標

<昨今の社会経済情勢等の変化>

加速する少子高齢化に伴う人口減少の深刻化

新型コロナウイルス感染症や国際情勢の緊迫化に伴うサプライチェーンの混乱や急激な原油・物価高騰

コロナ制限の緩和による観光需要の拡大

基本方針

重点政策(案)

「人生100年時代のフロンティア県の実現」

1 安全・安心で住みたくなる香川をつくる
「県民100万人計画」

- ① 「子育て県かがわ」をつくる
- ② 教育の充実
- ③ 女性や高齢者、障害者が活躍する社会づくり
- ④ 安心できる医療・介護体制を構築
- ⑤ 災害や渇水に強い県土をつくる
- ⑥ 交通事故や犯罪のない安全安心な社会をつくる
- ⑦ 人口100万人計画

2 活気に満ち挑戦できる香川をつくる
「デジタル田園都市100計画」

- ⑧ 産業拠点香川へ
- ⑨ 「四国の玄関口」として確かなインフラ整備を進める
- ⑩ 農林水産業の先進県へ
- ⑪ 県産品の販路拡大
- ⑫ あらゆる世代・人材で香川の産業を支える
- ⑬ グリーン社会の実現
- ⑭ デジタル社会を形成する

3 多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる
「にぎわい100計画」

- ⑮ 観光客2割UPを目指して
- ⑯ まち全体の美化推進
- ⑰ 文化芸術、スポーツの振興による地域活性化

<推進の視点 >

- ① 県民等との協働、② 広域連携、③ デジタル化の推進、④ 行財政改革の推進、⑤ SDGsの推進、⑥ 関係人口の創出・拡大